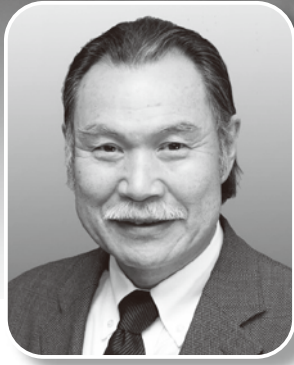




“審美性と機能性の融合-パナデントシステム”

“Combining Esthetics and Function-the Panadent System”



山崎 長郎 先生

1970年 東京歯科大学 卒業
1974年 原宿デンタルオフィス 院長
東京SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry) 最高顧問
SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry)
インターナショナル 会長



Mr. Thomas E. Lee

パナデント咬合器の発案者であるDr. Robert Leeの息子で、
パナデント社長。
35年に渡りトップの臨床医や歯科業界に関わっており、
咬合器の設計と審美・咬合との関連性に関して、
米国内・外で多くの講演活動を行っている。



古賀 正忠 先生

1974 東京歯科大学大学院 歯学研究科歯科矯正学修了 歯学博士
1999 米国Edward H. Angle 矯正歯科学会正会員
2003 古賀矯正歯科クリニック 院長
2007 米国Journal of Clinical Orthodontics (JCO)
Contributing Editor

素晴らしい修復・治療に長期安定をもたらす機能性に対し、かつてないほど関心が高まっています。現在市場には何種類もの素晴らしい咬合器システムが回っていますが、修復作業の90~95%にはディスプレイの咬合器が用いられています。さらにこの修復作業では、その複雑な使用方法、正しい使用方法への誤解、マウント作業に時間がかかることから、フェイスボウも用いられていません。機能性と審美性のパラメータに関して、ラボサイドと緊密にコミュニケーションをとることができなければ、修復・治療は成功し得ません。

今回、咬合器とフェイスボウ使用方法に対する原理と、その理解をさらに深めるだけでなく、ヒンジアキシス、咬合平面、前方運動経路、ベネットムーブメント、咬合形態学とアンテリアガイダンス等の生物学的要因が咬合に与える影響についても講演していただきます。臨床・ラボサイドでの機器の使用法に止まらず、患者様に審美性と機能性2つの領域における最高の結果を提供するために、ラボサイドとのコミュニケーションをシンプルにする診断上のオプションもご紹介させていただきます。

また、今回はTom氏の父親でありパナデント咬合器の考案者である故Robert Lee先生の長年の友人であった山崎長郎先生と古賀正忠先生にも講演をお願いいたします。山崎先生には補綴医の立場から「顔貌から立案する審美修復治療」、古賀先生には矯正医の立場から「矯正歯科治療における咬合器の重要性」についてお話していただきます。多くの先生方にご参加いただければ幸いです。

- ◎ バイオエスティックデンティストリーとは
- ◎ 形態と機能の関係
- ◎ 記録装置の歴史
- ◎ ゴールデンプロポーシオンを用いた顔貌分析
- ◎ トリートメントケース

咬合の決定要因

- ◎ ヒンジアキシス
- ◎ 前方運動経路
- ◎ 咬合平面
- ◎ ベネット運動経路
- ◎ 機能性 vs 審美性
- ◎ アンテリアガイダンス
- ◎ コンダイルの位置
- ◎ 臼歯部のアナトミー

日 時 2014年5月15日(木) 9:30~16:30
会 場 新宿住友ホール
 〒163-0290 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビルB1
定 員 150名
受 講 料 ¥25,000 (消費税、昼食含)

お申込・お問い合わせ先 株式会社 松風 矯正課 松風矯正セミナー係
 Tel.03-3832-1824 Fax.03-3832-7682
受講料お振込先 みずほ銀行 上野支店 普通口座:4455789
 口座名:松風矯正セミナー
 ※振込を持って受講受付とさせていただきます。※振込手数料はご負担下さい。
 ※振込時のご利用明細をもって領収書とさせていただきます。
 ※振込人のご名義には、なるべく参加される先生のお名前を加えていただくようお願い申し上げます。

お申し込みは、FAXにてお願い申し上げます。

FAX送信先：株式会社 松風 矯正課 03-3832-7682

“審美性と機能性の融合-パナデントシステム” 参加申込書

フリガナ			
ご氏名		医院名 勤務先名	
ご住所	(〒)		
	e-mail: @		
TEL		FAX	

※ご提供いただきましたお名前、ご住所、お勤め先、お電話番号等の個人情報は、今回の講演会及び今後開催される講演だけに利用し、管理いたします。

